

河原町埋蔵文化財調査報告書 第9集

鳥取県  
河原町内遺跡分布調査報告書

1994. 3

河原町教育委員会

# 序 文

この報告書は、平成5年度に国庫補助金を受けて実施した町内和奈見部落周辺に所在する埋蔵文化財の分布調査記録であります。

河原町は、自然環境に恵まれ多くの有形・無形の文化遺産が残されておりますが、近年社会の進展にともない、各種開発事業が計画・実施されており、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るため、発掘調査が継続的に実施されているところであります。

今回の調査では、土壙・柱穴・土器片を検出し、郷土の歴史を解き明かしていくうえで貴重な資料となるものであります。

さらに、今後は分布調査の結果に基づき発掘調査を行い詳しい資料を残したいと考えております。

この調査にあたり、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位のご指導、ご協力により調査を終え、報告書を刊行することとなりました。ここに深く感謝を申し上げます次第であります。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土の理解に役立つと共に今後の研究の一助となれば幸いです。

1994年3月

河原町教育委員会

教育長 蓮 佛 傳

# 例 言

1. 本報告書は、平成5年度に国庫補助及び県補助を受けて河原町教育委員会が実施した河原町内遺跡の分布調査の記録である。
2. 本分布調査事業は、県営和奈見地区土地改良総合整備事業及び和奈見堤防工事に伴い遺跡の範囲と性格を確認し、工事との調整を図るために行った分布調査である。
3. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。
4. 本書に使用した方位はすべて磁北を示す。  
本書における記号はトレンチをTとする。
5. 報告書は、小泉、中島で協議し、河原町教育委員会が編集、作成した。
6. 発掘調査で得られた日誌・図面・写真・遺物等は、河原町教育委員会で保管する。
7. 調査関係者は次のとおりである。

調査団長	蓮 佛 傳	(河原町教育委員会教育長)
調査指導	山 榊 雅 美	(鳥取県埋蔵文化財センター)
調査員	中 島 弘 隆	(河原町教育委員会)
事務局	小 谷 和 章	(河原町教育委員会教育課長)
	小 泉 悦 則	(河原町教育委員会教育課長補佐)
調査協力	和奈見部落	
	鳥取県埋蔵文化財センター	

# 本文目次

I	位置と環境 .....	1
II	調査に至る経過 .....	2
III	調査の概要 .....	2
	1. 概 略 .....	2
	2. トレンチ調査状況 .....	5
	3. 遺構について .....	7
	4. 遺物について .....	8
IV	ま と め .....	14

## 挿 図 目 次

挿図1	和奈見遺跡周辺遺跡位置図	1
挿図2	和奈見遺跡トレンチ配置図	3~4
挿図3	T-1	10~11
挿図4	T-3	10~11
挿図5	T-7	10~11
挿図6	T-13	12~13
挿図7	T-11	12~13
挿図8	T-12	12~13
挿図9	T-10	12~13

## 図 版 目 次

図版Ⅰ	和奈見遺跡全景 (A地区)	図版Ⅳ	T-10
	T-2		T-11
	T-3		T-12
図版Ⅱ	T-1		遺物出土状況
	T-4	図版Ⅴ	和奈見遺跡全景 (B地区)
	T-5		T-13
図版Ⅲ	T-6		T-14
	T-7		
	T-8		
	T-9		

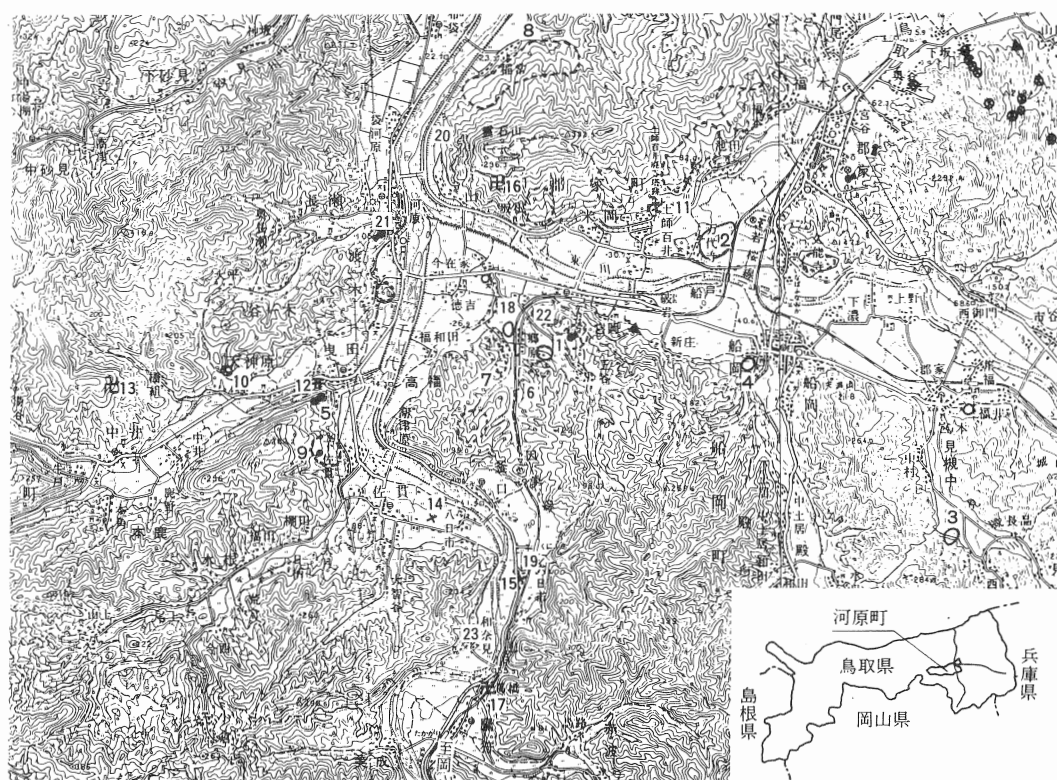
## 表 目 次

表1	和奈見遺跡トレンチ一覧表	9
----	--------------	---

# I 位置と環境

和奈見遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字和奈見に所在し、千代川支流智頭川の左岸、和奈見部落の東部に位置している。

和奈見部落には、延喜式内社「都波奈弥神社」があり、部落北西の榊形山には榊形城跡がある。また、本町中心部の千代川流域の沖積平野を囲む微高地には多くの集落遺跡があり、1983年以降「前田遺跡」「郷原遺跡」「下中溝遺跡」「山手森谷上分遺跡」が相次いで発掘調査されるなど、古くからの遺跡の存在が推定される場所である。



挿図1 和奈見遺跡周辺遺跡位置図

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>凡 例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>× 遺物出土地</li> <li>○ 散布地・集落跡</li> <li>▲ 銅鐸出土地</li> <li>○ 古墳群</li> <li>◐ 前方後円墳</li> <li>● 円墳</li> <li>⊗ 窯跡</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 郷原遺跡</li> <li>2. 万代寺遺跡</li> <li>3. 牧野遺跡</li> <li>4. 丸山遺跡</li> <li>5. 獄古墳</li> <li>6. 郷原古墳群</li> <li>7. 山手古墳群</li> <li>8. 稻常古墳群</li> <li>9. 大平古墳</li> <li>10. 天神原古窯跡群</li> <li>11. 土師百井廃寺跡</li> <li>12. 式内社売沼神社</li> <li>13. 羽黒山妙玄寺跡</li> <li>14. 瓦経出土地</li> <li>15. 銅鉦出土地</li> <li>16. 最勝寺</li> <li>17. 大安興寺</li> <li>18. 前田遺跡</li> <li>19. 下中溝遺跡</li> <li>20. 片山遺跡</li> <li>21. 丸山城跡</li> <li>22. 山手森谷上分遺跡</li> <li>23. 和奈見遺跡</li> </ul> |
|---|---|

## Ⅱ 調査に至る経過

本調査地は、平成6年度より実施予定の県営和奈見地区土地改良総合整備事業区域（以下ほ場整備区域と呼ぶ）に含まれ、地形的環境、近隣地域（本町及び隣接する用瀬町北部）に多くの遺跡が存在することにより調査を必要とする地域であった。

本地区の千代川対岸北部の「下中溝遺跡」は、1986年に発掘調査が行われ、付近に集落遺跡の存在が推定されている。また、「下中溝遺跡」から峠を越えると1983年以降に発掘調査を行った「前田遺跡」、「郷原遺跡」、「山手森谷上分遺跡」があり、多くの遺物とともに集落跡が確認されている。用瀬町にも「鷹狩遺跡」、「馬橋遺跡」「鷹狩1・2・3号墳」が存在している。

そして、事業の具体化に伴い、平成4年10月19日に八頭地方農林振興局長より協議を受け、調査を行うこととなった。

このため、町教育委員会で踏査を行ったところ土器細片を数点採取したが、平成4年12月に本町調査員と県埋蔵文化財センター山柘氏が踏査を行ったところ広範囲で土器片が発見され、遺跡の存在が推定されることとなった。

その後、平成5年4月16日建設省中国地方建設局鳥取工事事務所長より和奈見堤防工事の実施に伴う協議があり、両事業区域が接しているところから一括して調査を行うことになった。

本調査地は、そのほとんどが水田であり水稲が作付けされており、稲の収穫を待って調査を行うことになったが、堤防工事の開始が早まったことと、ほ場整備工事の開始が遅れそうな状況となったため、堤防工事区域の調査を先に行い時期を見て、ほ場整備区域の調査を行うことになった。

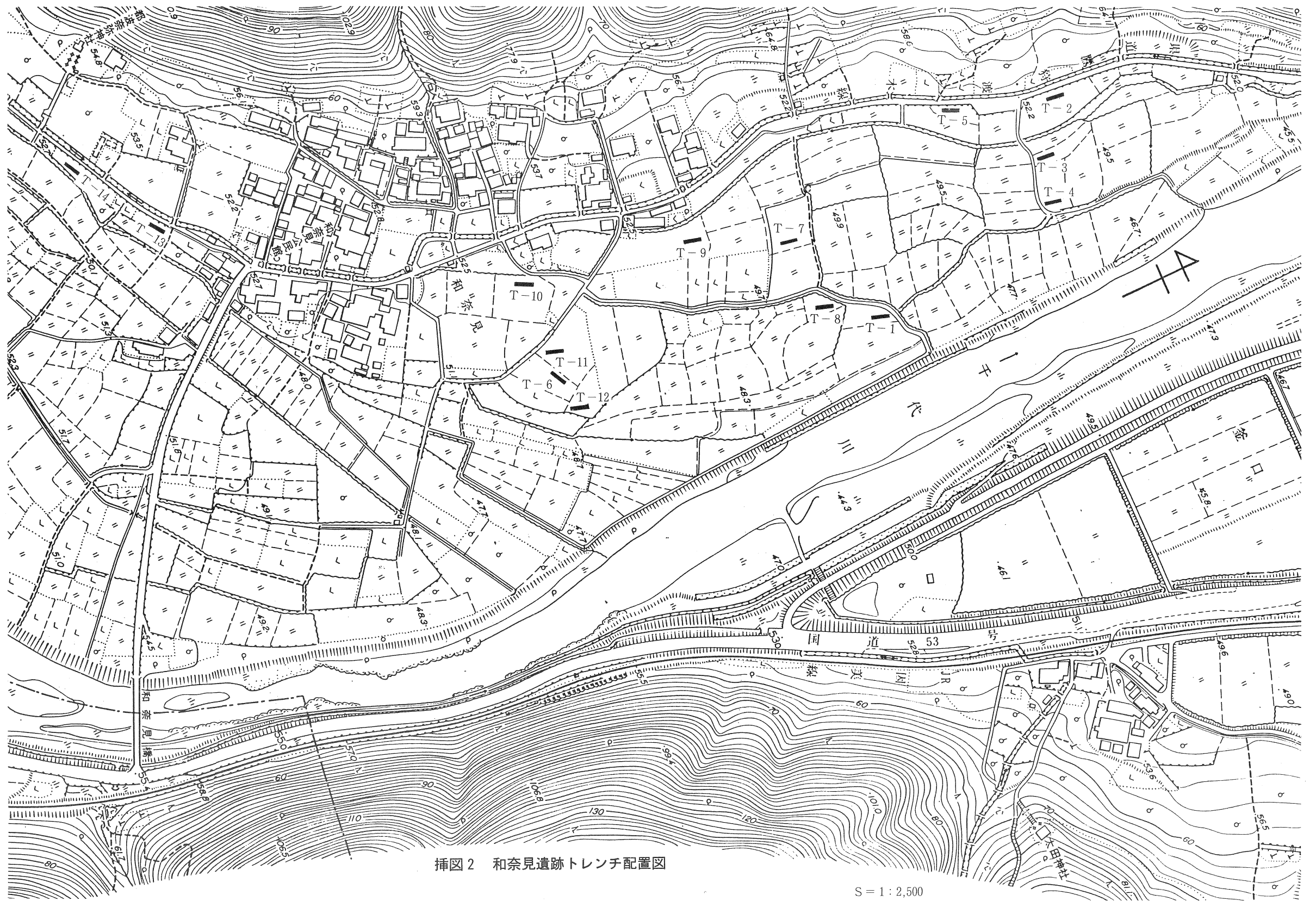
## Ⅲ 調査の概要

### 1. 概 略

調査区域の内、堤防工事区域は、ほ場整備区域に接して細長く位置しており、その中の最も幅の広い部分にトレンチを1本設定した。T-1がそれである。

また、調査区域が和奈見部落を挟んで北東部と南部に分かれることから2つの調査区に分けることとし、北東部をA地区・南部をB地区と呼ぶ。

ほ場整備区域では、大部分が盛り土になる計画であったため、水路工事により遺跡が消滅する恐れのある部分を中心にA地区に11本（12本）のトレンチを、B地区に2本のトレンチを設定した。調査面積は、合計14本のトレンチで約250㎡である。



挿図2 和奈見遺跡トレンチ配置図

S = 1 : 2,500



## 2. トレンチ調査状況

### (A地区)

T-1 調査地域A地区（以下A地区）の最東端に接し、一級河川千代川左岸の川床に近い「和奈見堤防工事」区域に設定したトレンチ。

表土下1.30mを掘り、本遺跡に設定したトレンチの中では、一番の深さである。遺跡が全体的に過去川床であったと思われる場所に位置していることもあって、かなり水が湧出した。

灰白色粘質土が堆積されていたが、地山と思われる層は確認できなかった。（多量の水の湧出と石が多くなってきたことやトレンチがかなりの深さのため試掘調査を取りやめた。）。

河川（千代川）と同様の川原石が多量に検出されたが、遺構、遺物はともに検出されなかった。

T-2 A地区の最北端で、遺物散布密度の高い地域でもある、小高い水田に、県道鷹狩渡一木線と平行するかたちで設定したトレンチ。表土下0.60mで地山と思われる暗褐色粘質土に達したが、多量の水が湧出し明確でない。

遺構は検出されなかったが、遺物は多数の礫といっしょに土師器・須恵器の小片が数点出土した。ただし、遺跡の時期を決定づけるものではなく、実測も不可能であった。

T-3 T-2の東側に平行するかたちでA地区北部の水田（T-2よりも低い）に設定したトレンチ。

表土下0.98mを掘り、地山面に達した。はっきりと6層に分層できる土層であるが、T-2と同様に多量の礫とともに水が湧出し、作業は困難を極めた。遺構は検出されず、出土遺物はなかった。

T-4 A地区と地域外との境界付近、T-2、T-3に平行して並ぶかたちで設定したトレンチ。T-3の東側で数メートルしか離れていない位置に設定したにもかかわらず、河川に近いことから土質が一転して粘質土から河川敷特有の砂質土に変わった。

また、土層を見ても、北側部分は表土下0.12mと浅いのに対して、南側部分は表土下0.80mと深く、多量に埋土された形跡が確認された。遺構は検出されず、遺物・礫とも出土しなかった。

T-5 T-2の南側で同様に県道沿いの水田に平行する形で設定したトレンチ。表土下0.70mで、地山に達したが県道を境に西側に位置している水路の影響もあり、多量の水が湧出した。

4層に分層される土層であったが、規模の大きい石が多く出土した。遺構・遺物ともに検出されなかった。

T-7 A地区中央部の水田に設定したトレンチ。表土下北側が0.76m、南側が0.48でそれぞれ地山面を確認した。土質は、暗黄色砂質土で、遺構は検出されず、出土遺物はなかった。

T-8 T-1の南側でA地区東端の水田に設定したトレンチ。T-1と同様に河川の近くに位置していることもあり、表土（耕作土）が非常に少なく（薄く）表土下0.15mで砂質土に達した。さらに掘り進んだ結果、規模の大きい石が多量に出土するとともに、表土下0.46mで川砂一層になったために掘り下げを取りやめた。遺構は検出されず、出土遺物はなかった。

T-9 A地区中央部より南側で県道沿いの水田に設定したトレンチ。耕土（明褐色土）、茶褐色土、黄褐色砂質土、黄褐色粘質土とはっきりした土層（4層）を成す。表土下0.40mで地山面に達したが、多量の水が湧出した。遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。

T-10 A地区の南端で県道に近い水田に設定したトレンチ。表土下0.42mで地山に達した。T-10は他のトレンチと違い、礫・砂・水の湧出等が無く、A地区では最も肥沃な水田で、暗褐色土の耕土が厚い土層を成す。

遺構は検出されず、出土遺物はなかった。

T-11 T-10の東側のA地区の最南端で地域内唯一の畑地に設定したトレンチ。表土下0.38mを掘り、茶褐色土が入り混じった黄褐色粘質土の地山面を確認したが、かなり削平されていた。遺構は、土壌と思われる暗褐色土の落ち込みと、ピット（柱穴）を数個検出した。遺物は、土師器片が数点出土した。

T-12 A地区の南東端で、集落形成好適地と考えられる見晴らしの良い小高い台地状の水田に設定したトレンチ。表土下0.20mで地山を確認したが、T-11と同様に相当削平されており、土質はほぼ同じであるが、炭を含んだ土層である。

遺構は、ピット（不整形な柱穴）と思われる黒色土の落ち込みと土壌を確認した。出土遺物は、土壌内で径0.60mを測る古墳時代と思われる土師質の甕が検出されたが、長年の水田耕作等（機械利用）により口縁部と頸部は破碎されていた。

T-6 遺構を検出したT-11とT-12に関連して、遺構の広がりを確認するため、T-11とT-12の間にある水田に両トレンチ（T-11、T-12）を結ぶように設定したトレンチ。表土下0.30mで地山に達したが、土質、土層とも同じであるにもかかわらず、遺構、遺物はともに検出されなかった。

## (B地区)

T-13 B地区の北側で、農道と水路の間にある畑地に設定したトレンチ。トレンチの北側は、4層からなる土層を成し、表土下0.64mで黄褐色砂質土の地山面に達した。それに対して、トレンチの南側は表土下0.28mで薄い地山面に達し、さらに掘り進んだ結果、多量の石と礫が出土し、川床と同じ状況となった。同じ畑地に設定したトレンチにもかかわらず、全く違う土質、土層である。遺構、遺物はともに検出されなかった。

T-14 T-13の南西側に位置する多少原野化した畑地に設定したトレンチ。北側が農道と水路、南側が川である。耕土が非常に少なく、数センチメートルであり、表土下0.20mで砂地に達した。さらに掘り下げた結果、多量の砂と礫、大小の石が多く出土したので0.74m試掘して調査を取りやめた。遺構は検出されず、出土遺物はなかった。

## 3. 遺構について

今回の試掘調査で検出された遺構は、調査の主旨があくまでも分布調査であり、遺跡の広がりをつかむためのものであるために、遺構の掘り下げを実施しなかった。このため、遺構の性格等を確実にとらえることはできなかった。

さらに、過去の文献や現在の河川（千代川）の流姿から、現在の水田や畑が以前は「川」であったことが考えられることにより、地山の区別が困難であったために遺構の見落としや、遺構の流失等もあったように思われる。

調査の結果、T-11・T-12で柱穴と土壌をそれぞれ検出した。

### [柱 穴]

T-11・T-12で検出。平面形は円形（T-12は不整形）で径0.10m～0.20mと規模は小さい。検出されたピットが少ないため、柱間のスパン等規模は不明であるが、掘立柱建物であろう。時期は、現段階では不明瞭であるが、柱穴上面に土師器・須恵器の破片を含んでいる状況から、古墳時代から奈良・平安時代にかけてのものと推定される。

### [土 壌]

T-11・T-12で検出。T-11の土壌、T-12の土壌ともそれぞれ1基確認したが、何れも部分検出のため規模（長軸、短軸）はともに不明である。さらに、全面発掘していないことと、遺構と地山の見極めが不明確なために全容は明らかでないが、平面形は丸みを帯びた菱形と推定される。

いずれにしても、遺構を掘り下げることによって初めてこの遺跡における遺構の性

格、時期などが明らかになるだろう。

#### 4. 遺物について

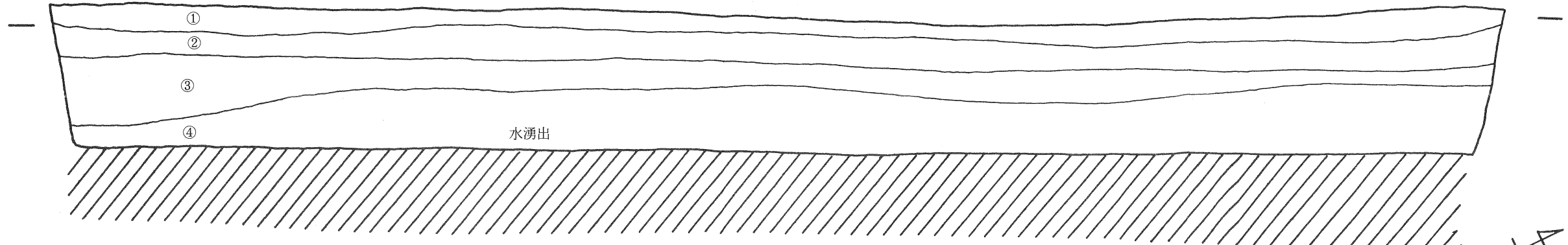
今回の調査で出土した遺物は、土器を数点数えるだけであった。種類は土師器と須恵器で、いずれも細片であり実測可能なものはなかった。T-12から古墳時代と思われる甕が出土しているが、掘り下げて取り上げてみなければ全容は解明できないであろう。

トレンチ 番 号	遺 溝	遺 物	規 模
			幅 × 長さ (m)
T-1	な し	な し	1.7 × 13.0
T-2	な し	土師器・須恵器	1.5 × 12.0
T-3	な し	な し	1.5 × 12.0
T-4	な し	な し	1.5 × 12.0
T-5	な し	な し	1.5 × 12.0
T-6	な し	な し	1.5 × 12.0
T-7	な し	な し	1.5 × 11.0
T-8	な し	な し	1.5 × 12.0
T-9	な し	な し	1.5 × 12.0
T-10	な し	な し	1.5 × 12.0
T-11	柱 穴・土 壇	土 師 器	1.5 × 11.0
T-12	柱 穴・土 壇	土 師 器	1.5 × 12.0
T-13	な し	な し	1.5 × 11.0
T-14	な し	な し	1.5 × 11.0

表1 和奈見遺跡トレンチ一覧表

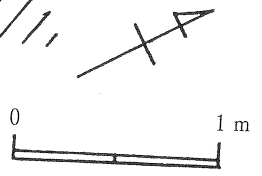


L = 47.80m

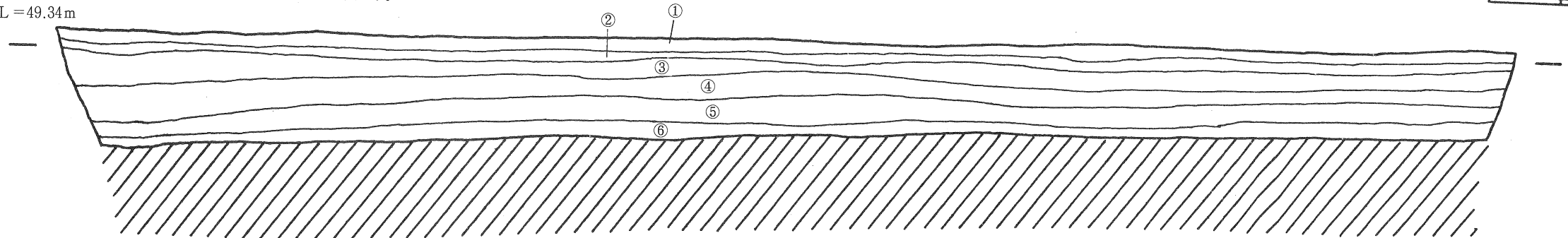


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 茶褐色土。
- ③ 灰白色粘質土。
- ④ 砂質土 (川原石多数含む)。

挿図3 T-1

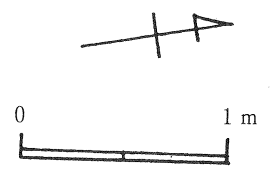


L = 49.34m

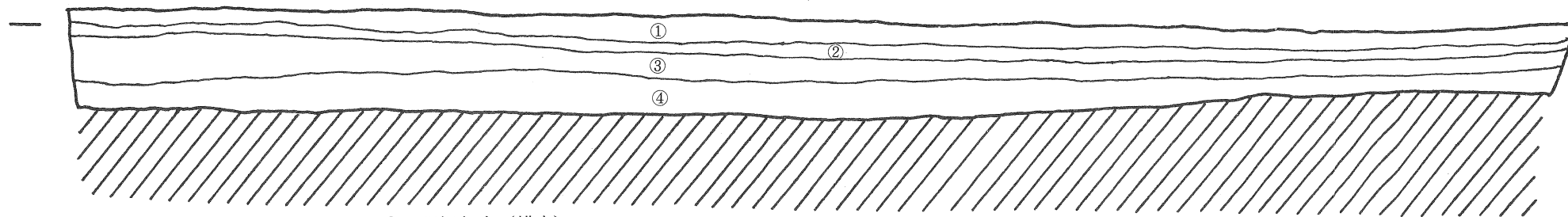


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 茶褐色土 (さらさら土)。
- ③ 暗茶褐色粘質土。
- ④ 灰色粘質土 (礫混じる)。
- ⑤ 暗褐色土 (礫混じる)。
- ⑥ 黄褐色粘質土 (礫混じる)。

挿図4 T-3

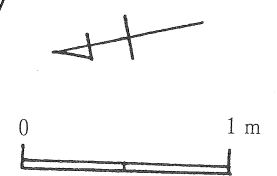


L = 49.68m

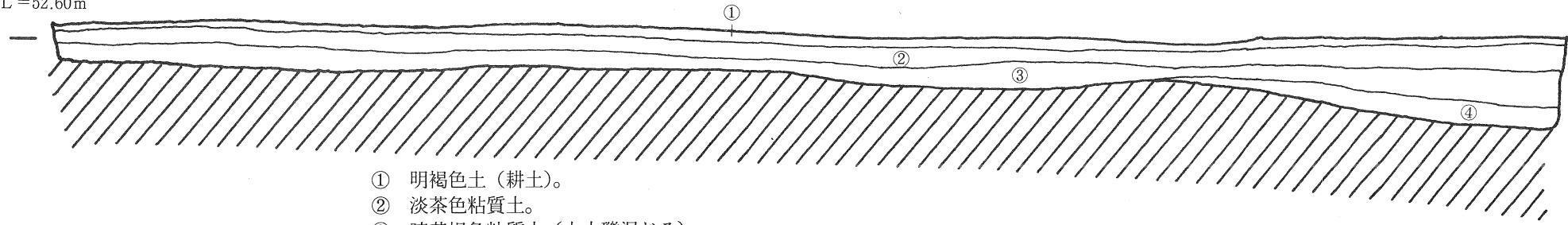


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 茶褐色土。
- ③ 黄茶褐色粘質土。
- ④ 暗黄色砂質土。

挿図5 T-7



L = 52.60m

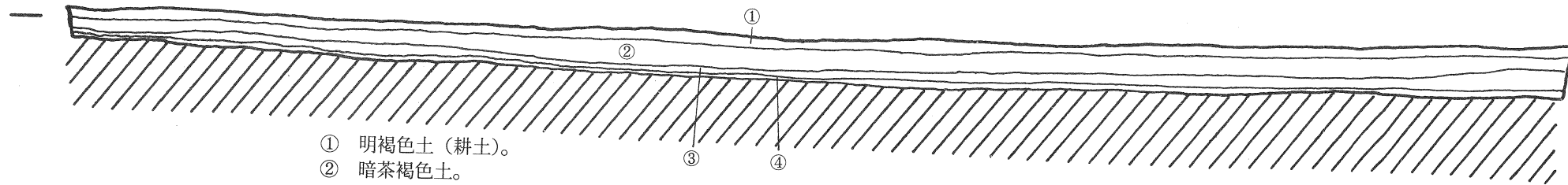


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 淡茶色粘質土。
- ③ 暗黄褐色粘質土 (大小礫混じる)。
- ④ 黄褐色砂質土。

挿図 6 T-13



L = 50.40m

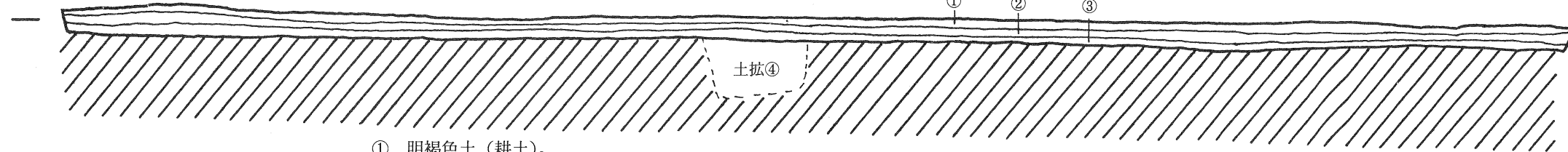


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 暗茶褐色土。
- ③ 暗黄褐色土。
- ④ 黄褐色粘質土 (茶褐色土混じる)。

挿図 7 T-11



L = 50.40m

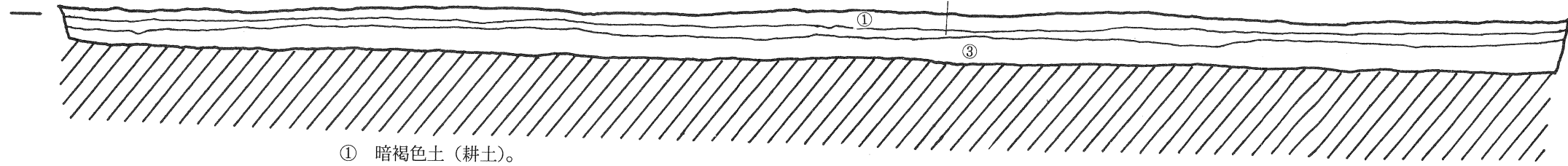


- ① 明褐色土 (耕土)。
- ② 暗茶褐色土。
- ③ 黄褐色粘質土 (炭化物混じる)。
- ④ 明黒色土 (炭化物、土師器細片混じる)。

挿図 8 T-12



L = 51.94m

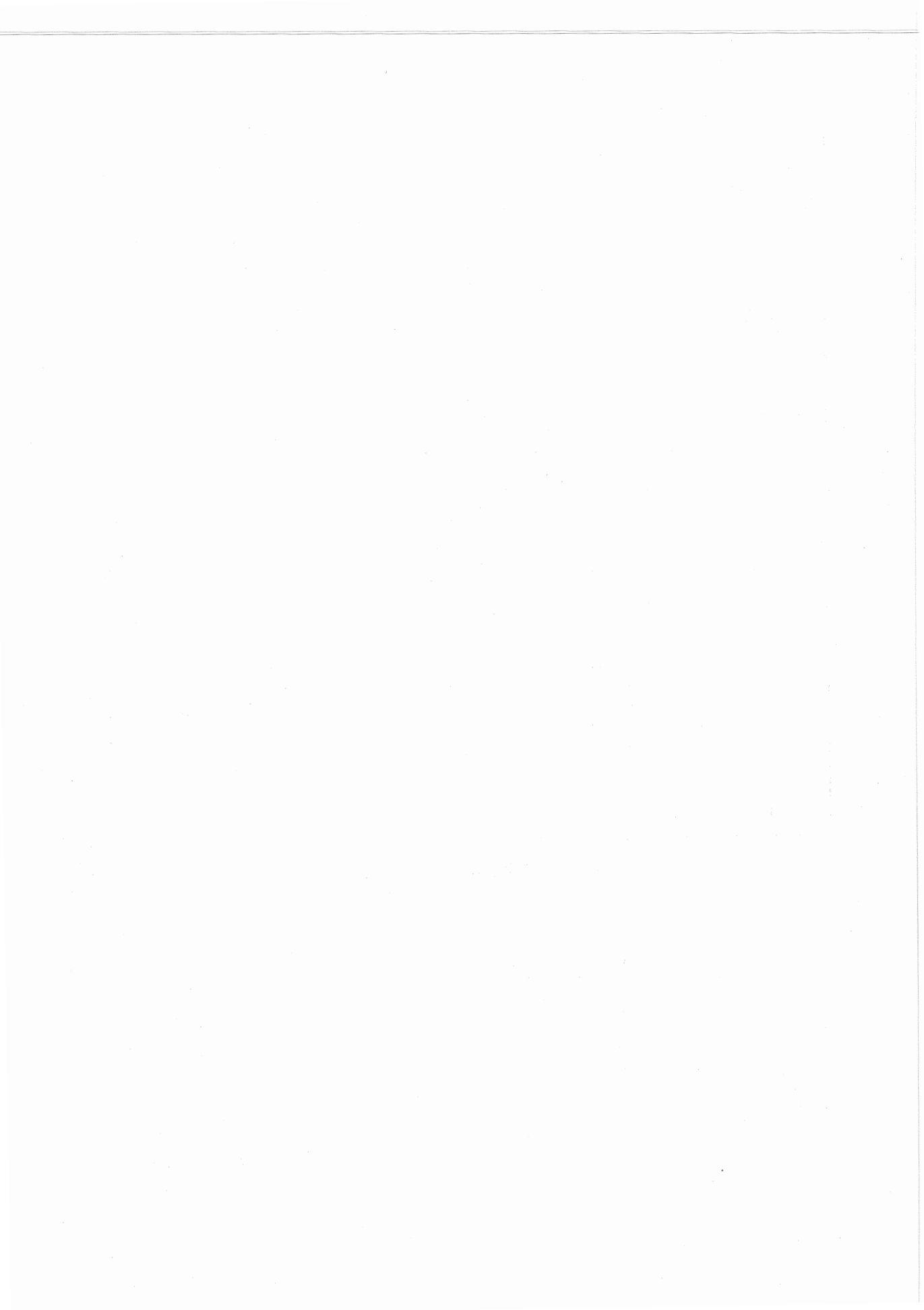


- ① 暗褐色土 (耕土)。
- ② 茶褐色土。
- ③ 暗黄褐色粘質土。

挿図 9 T-10







## IV ま と め

今回の分布調査では、ほ場整備予定地に土器片が広範囲で検出されたものの、数は少なく、遺構も少なかった。このため、住居跡の存在は推定されるものの種類、規模等については不明である。また、堤防工事区域については、何も検出されなかった。

出土遺物について考えてみると、古墳時代の土師器が殆どであり、また、すべてが小片であるため、器種、法量、成形、調整等は不明確であった。

いずれにしても、今後発掘調査による遺構の検出、掘り下げによって初めてこの遺跡の性格、時期などが明らかになるものと思われる。

また、今回の調査では資料的にも限られたものであったが、当遺跡の対岸北側に存在している下中溝遺跡等との関連性の詳細が期待できるとともに、和奈見周辺の歴史がいつそう明らかになるであろう。

# 図 版

(I ~ V)



和奈見遺跡全景（A地区北西から）



T-3（北から）



T-2（南から）



T-1 (北西から)



T-4 (北から)



T-5 (北から)



T-6 (北東から)



T-7 (北から)



T-8 (南西から)



T-9 (北から)



T-10 (北東から)



T-11 (南西から)



T-12 (北東から)



遺物出土状況 (T-12)



和奈見遺跡全景（B地区北東から）



T-13（南西から）



T-14（北東から）



河原町内遺跡分布調査報告書

発行日 1994年3月

発行者 河原町教育委員会

〒680-12

鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277-1

TEL (0858) 85-0011

印刷 谷岡印刷

〒680 鳥取市元町126

TEL (0857) 26-2001